

## 一般質問

宮田  
議員

## ○農業における自動化・省力化の可能性について

**質** 全国で2020年からの5年間に農業に携わる方の減少が過去最大であったと報告されています。本市での農家数、耕作面積の推移をお尋ねします。

**農林課長** 2020年および2025年の農林業センサスでの推移で答えします。農業経営体数は2020年が890経営体、2025年が699経営体で、191の減少で、経営耕地面積は2020年が1248ヘクタール、2025年が1083ヘクタールで、165ヘクタールの減少となっています。

## ○水産業における自動化・省力化の可能性について

**質** 以前は人が行っていた作業を機械などで自動化・効率化されたように、水産業にもこれからデジタルによる変革が訪れると考えますが、市内事業者の事例をお尋ねします。

**水産課長** 市内の水産業での自動化、効率化の取り組みは、鷹島町の水産会社一社が県と市の補助を受け、A I自動給餌機2機を導入されており、

シマアジの養殖に使用されています。このA I自動給餌機は、スマートフォンによる遠隔での給餌の設定や給餌映像の確認、自動給餌コントローラが可能となっています。成果としては、水産会社に尋ねたところ、シマアジは次年度からの出荷予定で、現時点で生産性に関する効果は不明だが、省力化が図られ、非常に便利で、導入してよかったとのことでした。

**質** 陸上養殖では自動化や省力化のメリットがあると考えられるが、一方で、設備投資やランニングコストは高額な印象があります。陸上養殖の市内での実情やメリット、難しさなどをお尋ねします。

**水産課長** 把握している市内の陸上養殖の事業者は2事業者で、1事業者はトラフグの養殖で、当初の計画では大型の水槽を58基で年間出荷量84トンとなっています。もう1事業者はウナギとトラフグの養殖で、規模や出荷量の詳細は把握していません。

陸上養殖を事業化する場合の課題として、電気代や燃料代・餌代などの高騰、台風や大雨などによる停電対策、機械の経年劣化による修繕費・更新費の負担、販路の確保などがあると考えています。

## 一般質問

立  
鈴  
議員

## ○公道の維持管理について

**質** 夕日が海へ沈み、養殖イカダがあり、鉄道が通る、調川道路公園から今福までの景観は素晴らしく、他市にはない非常に素晴らしい借景であり、西九州自動車道を通らずに国道を通ると、非常に味があって心が癒され、そして、海のふるさと館や魚市場の食堂に立ち寄ってアジフライを食べることもできるが、公道の維持管理が不十分と考えます。公道整備は市の景観に直結し、素晴らしい景観は移住にも直結し、波及効果が高いと考えるが、考えを伺いたい。

**市長** 景観は、初めて訪れる方々の第一印象に大きく関わると考えます。初めて訪れた場所の景観が非常によければ、また訪れたいと思います。場合によっては、そこに住みたいと思うことになると考えます。一方で、今福町雇尾地区の周辺では、以前に比べ道路際の雑木の繁茂が著しく、以前見えていた景色が見えなくなっていると感じています。以前は道路の周辺がもう少し伐採等がされていたと考えますが、近年は予算の関係等もあり、道路敷の範囲内にとどめられ、景観を阻害していると考え

えます。交通量が減少している中、市民の皆さま方と協力して改善できないか常日頃考えています。

## ○教育環境の現況と第2次松浦市小・中学校適正配置基本計画策定について

**質** 70年代半ばから子どもの数は年々減少していたにも関わらず国を始め行政は対策を講じることなく現在に至っており、基本計画策定に当たり、5年後10年後には生徒数がこれだけ減少するから、本土部中学校4校を1校に統合しようとする統廃合ありきの市の説明会は間違っていると考えます。市民の英知を参考に、万策尽き果てるまで存続への努力を重ねた結果、どうにもならない状況になれば、市民の皆さんも理解できると考えるが、考えを伺いたい。

**教育長** 現在、第2次松浦市小・中学校適正配置基本計画の策定に当たっていますが、本市の児童生徒の数が減少している現状を踏まえ、数年後では遅く、いま検討すべき時期に來ていると判断しました。現状でよい教育環境を整えるため、子どもたちにとって、クラス替えができる規模で社会性を身につけたり多様な考え方に触れたりして、切磋琢磨し合えるよりよい教育環境を整えることが教育委員会の最大の責務だと考えており、子どもたちの将来を考え、計画策定に着手しています。